戸山高校新聞
発行　新聞部
編集　戸山高校
編集人　戸山新聞部
立川一郎
都立戸山高校
渡辺信次
新聞部代表
佐々木勝
編集顧問　佐々木先生

豫算編成　いよいよ大詰へ

最終決定は二月上旬か

後期執行委員会は、予算編成の問題である来年度予算の決定に関係班長会議を迎えいよいよその頂点に達した感があるが、近日中に開かれる科学部・運動部予算の審議を終了することによってその最終決定がなされる運びとなるが以下昨年から今年へかけての審議の跡を見よう。

まず十一月下旬にはクラブ各班の予算調査表が執行委員に対し一斉に提出され、同委ではこれを基礎としてクラブ管理部、会計部などが主となって「執行委案」を作成し、十二月十九日から三日間にわたって行われた執行委と各班々長との個別折衝の際にはこの執行委案を中心として予算額の調整がなされた。次いで二十四日には執行委と各班々長との会合がもたれ一月早々に「班長会議」を開くことを決定。

今年に入って、予算審議の最大問題である来年度予算の決定に関係班長会議に対し一月十九日から四日間の予定で開始されたが、既に各班の予算額の大幅が決定しているため、運動部関係では相当活発な討議があったが一般に班長の出席状況も厳く例年の様な雰々しい雰囲気が交わされることも少なかった様でここにもクラブ活動の低調さが感じられた。

なお今度の予算編成に見られる特別な点としては、新四部を除いて前期執行委ではかねてから「部室建設委員会」を設けて、部室建設の計画を進めてきたことのほとその報告書が本にまとめられ近く開かれる生徒大会にかけられる承認を待つばかりとなった。

その計画によると一年間四十万円づつ三年計画で建築するが、先づ執行委員会（人文・文学・数学・科学・教生・芸術・運動・新聞部）は各班ともその総額約四万円以内の低調な活動決定が批判され予算額もぐっと減少する模様である。

その計画に於ても問題となる建設費については、総工費約二〇万円。費用は「教育債用金庫」より借入。本年四月より工事を開始する。そしてその返済金の出所は①臨時費の徴収。一人一ケ月二十円づつ向う三ケ年徴収し一年間二千八万余円を集める。②戸山会寄附（現運動部費の方角）となる積立金（例えばの建築構造は耐火建築（モルタル造）の場合）二千八万余円を集める。（十四万円）の出費要求。その合計金額一年間四十二万余円となっている。

要求は大体以上のようなものであるが、同委員会では最後に残った余分の費用で内部設備を行うべく張り切っている。

いずれにしても生徒大会に於て再検討されるのであるが、賛金調達方法については活発な論議がかわされよう。

来年度の行事日程

—H・R管理部案—

来年度行事日程のクラブ管理部案が非公式に発表された。それによると第一案では演劇コンクールが第二案では運動会がそれぞれ学期に行うこととされている。

第一案

演コン　6月25・26日（日）
（テストは7月1日頃より）
学園祭　6月23日—25日（日）
運動会　10月30日（日）又は23日（日）—この場合はテストの期日を早めることを条件とする。

第二案

運動会　6月12日（日）テスト
学園祭　第一案に同じ
演コン　11月12・13日（日）又は11月5・6日（日）

部室建設　具體案なる

総工費120万三ケ年計画で

執行委ではかねてから「部室建設委員会」を設けて、部室建設の計画を進めてきたことのほとその報告書がまとまり近く開かれる生徒大会にかけられる承認を待つばかりとなった。

その計画によると一年間四十万円づつ三年計画で建築するが、先づ執行委員会（人文・文学・数学・科学・教生・芸術・運動・新聞部）の建設費予定地は空き地（更衣室隣で、大きさは約三間、横六間となっている。運動部室・室。大きさは一室一・五間平方で建設予定地その他は未定であるが、校庭の民生局寄（現運動部費の方角）となる積立金（例えばの建築構造は耐火建築（モルタル造）の場合）二千八万余円を集める。②戸山会寄附（現運動部費の方角）となる積立金（例えばの建築構造は耐火建築（モルタル造）の場合）二千八万余円を集める。（十四万円）の出費要求。その合計金額一年間四十二万余円となっている。

要求は大体以上のようなものであるが、同委員会では最後に残った余分の費用で内部設備を行うべく張り切っている。

いずれにしても生徒大会に於て再検討されるのであるが、賛金調達方法については活発な論議がかわされよう。

クラブ豫算

	今年度予算	会計班内決定額
人文部	49,490	
地歴研究部	7,190	7,000
地外宗教研究部	6,000	7,000
文学部	14,200	5,500
数学部	4,400	0
科学部	17,700	19,000
教生天文部	156,000	
芸術部	28,500	30,000
無線部	29,900	27,000
合唱部	49,380	27,500
演劇部	28,420	34,000
手芸部	19,800	20,000
写真部	137,500	
美術部	7,100	9,350
運動部	38,000	40,000
卓球部	4,000	4,500
籠球部	10,800	22,500
野球部	30,900	19,000
排球部	21,700	32,500
庭球部	55,000	26,500
ラグビー部	483,010	
バレー部	43,500	34,410
水泳部	25,000	
陸上部	48,000	36,100
山岳部	49,200	男子36,150 女子22,500
ソフトボール部	37,000	31,395
ビート部	47,700	40,000
ボート部	42,500	
グランド部	23,500	
チドリ部	9,650	25,000
ツバメ部	53,900	18,800
水泳部	0	3,255
陸上部	23,560	39,000
山岳部	32,000	40,000
新聞部	20,000	33,910
放送部	12,500	16,300
渉外部	40,000	
合計	170,000	164,000

（1月29日現在）

論説　西穂高遭難への反省

去年の暮西穂高で本校生三人、独協生一人が遭難し、クリスマスに酔う都会人を驚かせた。続いて各方面から様々な批判が新聞・ラジオで発表され、とかく無謀な事をやり勝ちなわれわれに強い反省を促した。

今度の事件で原因が色々いわれているがやはり無謀な計画が一番の要素とみて良いだろう。この四人のうち三人が冬山には初めてでしかもリーダー格の島山君は冬山には二三回しか登った事がないそうだ。破れたテントも夏冬兼用のもの、西穂高で使えないのは当然である。（装備が全くなかったと世間では言っているが高校生としては